

都市再生整備計画 事後評価シート
黒井駅周辺地区(第二期)

平成28年2月

新潟県上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	上越市		地区名	黒井駅周辺地区(第二期)			面積	722ha		
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	445百万	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(黒井駅広場、駐車場、駐輪場、情報板)									
			提案事業	希少軽便鉄道車両動態復元等事業、整備事業等活用調査									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路事業(下吉南団地市道)			削除/追加の理由		他の交付金を活用するため、基幹事業から関連事業に移行したため。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	影響なし
			提案事業										
	新たに追加した事業		基幹事業										
			提案事業	地域資源回遊ルート支援事業			削除/追加の理由		地域生活基盤施設事業で設置する「ルート情報板」を補完するため			影響なし	
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし							
	変更	無し											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	黒井駅の乗降客	人/日	500	21	525	27		611	○	あり	駅設備・交通インフラの整備完了により、より駅を利用しやすい環境が整ったことが乗降客の拡大につながった。	
	指標2	地域住民の満足度	%	34.6	22	67.8	27		62.8	△	あり	自由通路及び駐車場・駐輪場の整備になど、設備の充実による利便性向上は図られたが、黒井駅に停車する路線数やコミュニティバスの便数の少なさなどから、満足度が目標値を下回る結果となった。	平成29年9月
	指標3	施設の入込数	人/年	2,749	22	3,000	27		3,695	○	あり	提案事業で復元・修繕した軽便鉄道のイベント来客者に向けて、情報板や街あるきマップで坂口記念館をPRして集客を図ったほか、季節ごとにイベントを開催し、施設特性や魅力を地区内外に発信した結果、入込数の増加に繋がった。	
	指標4										あり		
指標5										あり			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	○住民の自主的な発意により、地区内外へ地域資源を発信するために活動する観光協会が設立され、地域資源の再評価が進んだ。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	無し					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	無し					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築		・住民組織であるNPO法人くびき振興会が主体となり、地域のまつり、敬老会、スポーツフェスティバル、文化祭を継続して実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●		

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	下吉南団地市道	72	L=1800m、W=3.0m	-	-	その他事業への切り替え	影響なし		
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	黒井駅広場、駐車場、駐輪場、情報板	133	A=5690㎡、N=24基	83	A=5690㎡、N=5基	設置個所の精査による情報板設置数の減少	影響なし	●	
高質空間形成施設	黒井駅自由通路	486	L=52.5m、W=3.0m	415	-		影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	黒井駅の乗降客	人/日	平成27年6月の平日に黒井駅で現地調査して1日の乗降客数を把握する。	434	H16	500	H21	525	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	611	事後評価	○		
指標2	地域住民の満足度	%	・町内会の協力を得て、地区住民(南川地区)を対象としたアンケート調査を行う	-	-	34.6	H22	67.8	H27	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み ●	62.8	事後評価	△		
指標3	施設の入込数	人/年	坂口記念館入館者日報を積算して年間入館者数を算定する。	-	-	2,379	H22	3,000	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	3,695	事後評価	○		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	計測日は、学生の夏休み・冬休み及び祝日・休日連続する時期には無いため、標準的な利用を計測するには適している。その中で、目標値を達成しているため○とした。	
指標2	計測値は、従前値から28.2ポイント上昇し、著しい改善が見られたが、目標値には達していないため△とした。	無記名アンケートにより指標計測したが、従前値計測時から今回の目標値計測時までの間において、対象者の満足・不満足の評価の変化については確認できなかった。
指標3	地域生活基盤施設(情報板)設置後の効果を図るため、平成26年10月から平成27年9月までの入込数を集計した結果、入場者数を達成しているため○とした。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

住民の自主的な発意により、地区内外へ地域資源を発信するために活動する観光協会が設立され、地域資源の再評価が進んだ。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
頸城区には、住民組織として「くびき振興会」が結成され、くびき振興会では、環境・福祉・安全など地域コミュニティが直面している課題解決に向け、5つの部会がそれぞれ活動している。平成17年度から、行政と連携して手作りの夏祭りである「頸城の祭典」、敬老会、「くびき文化祭」などを行っている。	予定どおり実施した	● ・住民組織であるNPO法人くびき振興会から主体となってもらい、夏祭りイベント、敬老会、スポーツフェスティバル、文化祭などを継続して実施した。	・NPO法人くびき振興会（頸城区全域を網羅した組織で、区全体にかかわる事業を実施。傘下に地区振興会がある。）	継続
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
「NPO法人くびきのお宝のこす会」では、軽便鉄道車両や瀧本邸など地域資源を活用した街づくり活動を展開しており、事業終了後は、こうした住民組織、関係団体と連携しながら、暮らしやすい住環境づくりを進めるとともに、住民が主体となったまちづくり事業の展開を進めていく。	予定どおり実施した	● ・NPO法人くびきのお宝のこす会の自主的な取り組みとして、提案事業により復元・修繕した軽便鉄道車両の公開イベントを中心とした街づくりの取り組みを実施した。	・NPO法人くびきのお宝のこす会（頸城区百間町周辺及び地区内外の鉄道愛好家によって構成）	継続
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事後評価検討チーム)	関係課の係長級職員(頸城区総合事務所、都市整備課)	平成27年10月13日(火)	頸城区総合事務所

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標3		
指標名		黒井駅の乗降客	施設の入込数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設 高質空間形成施設	◎ ◎	一旦踏切を渡って黒井駅北口まで迂回しなければ利用できなかったが、自由通路・駐輪場・駐車場の整備及び計画1期で整備したコミュニティバスにより、南口から直接駅利用が可能となり、良好な利用環境が整ったことが乗降客の拡大につながった。また、軽便鉄道公開イベント開催時、地区外からの来訪客による利用も図られた。	◎ -	提案事業で復元・修繕した軽便鉄道のイベント来客者に向けて、情報板や街あるきマップで坂口記念館をPRして集客を図ったほか、季節ごとにイベントを開催し、施設特性や魅力を地区内外に発信した結果、入込数の増加に繋がった。
	希少軽便鉄道車両動態復元等事業 地域資源回遊ルート支援事業 整備事業等活用調査	○ ○ △			
提案事業					
関連事業	市道上三分一2号線	○		-	
	下吉南団地市道	○		-	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	コミュニティバスやJR以外も停車するようになった黒井駅のダイヤ改正など、公共交通の利便性を周知する。	地元観光協会を中心に、周辺の地域資産をルート化して施設をパッケージでPRすることで、入館者の一層の増加を図る。		
-------	--	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2												
指標名		地域住民の満足度												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	地域生活基盤施設	△	自由通路及び駐車場・駐輪場の整備などに、設備の充実による利便性向上は図られたが、黒井駅に停車する路線数やコミュニティバスの便数の少なさなどから、満足度が目標値を下回る結果となった。だが、従前値と比較して、28.2ポイントの大幅な増が図られた点は評価できる。	IV										
	高質空間形成施設	△												
提案事業	希少軽便鉄道車両動態復元等事業	△												
	地域資源回遊ルート支援事業	△												
	整備事業等活用調査	△												
関連事業	市道上三分一2号線	△												
	下吉南団地市道	△												

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	住民の意見を踏まえた、適切なダイヤの設定などにより、黒井駅を中心とした公共交通の利便性向上を図る。					
------------------	---	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事後評価検討チーム)	関係課の係長級職員(頸城区総合事務所、都市整備課)	平成27年10月13日(火)	頸城区総合事務所

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・黒井駅自由通路、駅前広場、駐車場、駐輪場等による交通利便性の向上	・駐車場及び駐輪場の台数拡大により、通勤・通学での黒井駅利用者の利便性が向上したことで、駐輪場及び駐車場を利用した黒井駅乗降客が増大した。特に駐輪場については、学生を中心に週休日以外は満車の状態となっている。		<ul style="list-style-type: none"> ・黒井駅駐輪場は屋根がないため、強風・大雨などによる転倒が相次いでいる。荒天対策が必要。 ・街歩きマップ設置施設を地区外の施設にも設置し、地域資源の周知の強化を図ることが必要。
・公共交通機関である鉄道とバスの利用促進による、駅周辺施設の整備効果の拡大を図る必要がある。	黒井駅南口が整備され、迂回せずに駅を利用することが可能になったこと、コミュニティバスが南口停車できるようになったことで利用環境が改善し、バスを利用している黒井駅乗降客が増加した。		
未利用地の有効活用	都市再生整備計画区域内で事業が完了されたことにより、住宅や事業所、福祉施設の建設が行われ、未利用地の解消面積が増加した。	いまだ黒井駅周辺の未利用地が多く残されているため、民間開発の誘導を進める必要がある。	
・老朽化している住宅団地内の側溝整備等、生活に密着した環境整備	地区内にある下吉団地内側溝の改修を行い、保倉川下流への降水の早期到達が実現し、安全な通行の確保並びに生活環境の改善が図れた。		
・点在する地域資源に磨きをかけ、これらをルート化することによりさらに魅力を高めていく必要がある。	・修繕・復元された軽便鉄道を中心とした回遊ルートについて、各施設に設置した情報板並びに街歩きマップの関係施設内への設置で周知することができた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	黒井駅利用者の拡大	黒井駅から北陸新幹線上越妙高駅への直接乗り入れ便の拡充、コミュニティバスだけでなく路線バスの黒井駅乗り入れを各事業者に要望し、運行ダイヤ増加や路線の拡充など黒井駅利用による利便性向上を図る。	鉄道事業者など関係事業者への働きかけ・PR
	住民が中心となって企画・運営する観光事業の拡充	設立したばかりの観光協会など住民が中心となり、坂口記念館・軽便鉄道を中心とした観光をテーマにした街づくりへの継続的な支援を行う。	・地域施設のまちあるき回遊ルート ・施設巡りツアーの開催

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	交通の利便性の拡充	利用者の多くは、中学・高校など学生が多く、コミュニティバスの利用者が多いため、この年齢層を中心とした利用促進策を行う。	バスのダイヤ改正による利便性の拡大や地元住民へのPRによる周知。
	新たなソフト事業の実施	完成した駅周辺施設や地域資源の更なる活用を図り、地域の満足度向上を図るためのソフト事業を実施する。	地域住民とのワークショップ・意見交換会の実施

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	黒井駅の乗降客	人/日	500	H21	525	H27	確定 ●	611	○	あり			
							見込み			なし			
指標2	地域住民の満足度	%	34.6	H22	67.8	H27	確定 ●	62.8	△	あり	平成29年9月	町内会の協力を得て、地区住民1700世帯を対象としたアンケート調査により数値を把握し、確定値とする。	
						見込み			なし ●				
指標3	施設の入込数	人/年	2,749	H22	3,000	H27	確定 ●	3,351	○	あり			
							見込み			なし			
指標4				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
指標5				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
その他の数値指標1				H			確定						
							見込み						
その他の数値指標2				H			確定						
							見込み						
その他の数値指標3				H			確定						
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・いずれの指標も、直接計測できるものだったので、数値の把握にかかる時間的コストはかなり抑えられた。	
	うまくいかなかった点	・指標2については、事業の達成状況についての満足度を評価するのか、実際の生活全般の満足度を評価するのか、都市再生整備計画の時点からわかりづらかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点	・地域資源をルート化し、地域の魅力を高めることとしたが、軽便鉄道中心の整備となり、指標として設定した坂口記念館来館者拡大のための事業が回遊マップの作成だけだったのは、導入する事業の配置バランスが悪かった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・地域活性化に係る住民の意識が高く醸成されていたため「希少軽便鉄道車両動態復元等事業」によって復元等された軽便鉄道、「地域生活基盤施設」による施設説明看板の活用について、全面的に協力を得ることができた。	
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価にあたっては、庁内横断組織による「事後評価 庁内検討会議」を実施し、各事業担当課で課題を共有し、改善方法策等について多角的に検討できた。	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点	・各指標の目標値の根拠が明確ではなかったため、目標達成の難易度がわかりづらかった。	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	10月28日(水)～11月11日(水)	10月28日(水)～11月11日(水)	担当課への郵送、FAX、電子メール、窓口での意見書	頸城区総合事務所
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に、住民公表を実施する旨を掲載	10月15日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	頸城区総合事務所窓口で閲覧	10月28日(水)～11月11日(水)	10月28日(水)～11月11日(水)		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	佐野 可寸志:長岡技術科学大学教授	平成27年11月24日(火)	頸城区総合事務所	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	既存組織を改めて委員に委嘱
その他の委員	青木 崇光:国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所 調査第二課長 山内 孝信:新潟県上越地域振興局 地域整備部 計画調整課長 井部 辰男:上越市町内会長連絡協議会 岩崎 康文:上越市都市計画審議会公募委員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書の日付は8月になっているが、指標1の計測時期が6月になっているが→最初は6月に作成し、指標1の評価を実施したが、8月に方法書の内容(指標1以外の項目)を変更したので、最終的に内容が確定した8月付の方法書としたもの。
	成果の評価	同上
	実施過程の評価	住民の満足度については、事業についての満足度を示しているのか、生活環境全般についての満足度を示しているのかわからないので、明確にした方が良いのでは、と感じた。
	効果発現要因の整理	適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	適正であることが確認された。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	足りない点もあるが、おおむね適正であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	ソフト事業も入れたほうがよいのではないかと意見があった。
	フォローアップ	指標2の目標値の積算根拠を明確にした上で調査する必要がある、との意見があった。 事業の事績や効果の周知方法を検討する必要があるのではないかと、との意見があった。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・特になし
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。